

## 平成 29 年第 4 回区議会定例会 区長挨拶要旨

平成 29 年第 4 回区議会定例会の開催に当たりまして、ご挨拶を申し上げます。

本日開会されました定例会は、今期、第 22 期葛飾区議会の任期における最初の定例会となります。今後 4 年間、区議会並びに区民の皆さまとの協働により、「夢と誇りあるふるさと葛飾」を実現するため、「子育て環境の充実」「健康長寿のまちづくり」「安全・安心で快適な住みよいまちづくり」「観光・産業の活性化」「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組み」を柱とした施策を 46 万区民のしあわせ実現に向けて、積極的に進めてまいります。

はじめに、「葛飾柴又の文化的景観」についてです。

本年 7 月、国に対して「重要文化的景観」選定の申し出をしておりました「葛飾柴又の文化的景観」については、去る 11 月 17 日、国の文化審議会から文部科学大臣に「重要文化的景観として新たに選定する」旨の答申がなされました。

後日の官報告示をもって正式な決定ということになりますが、平成 22 年度の予備調査から 7 年余りにわたり、地域の皆さまと力を合わせて準備してまいりました取組みが、「都内初の重要文化的景観」という形で結実したことは、大変、喜ばしい限りであります。早速、帝釈天題経寺参道や区役所などに横断幕を設置したほか、押上駅構内にポスターを掲出いたしました。また、広報かつしかにも特集記事を載せ、区民の皆さまを始め多くの方々にお知らせし、共に祝う機運を高めました。

今後も引き続き、関係者の方々と連携しながら、「重要文化的景観」の名に恥じないよう、地域の方々が守り、育んできた「葛飾柴又の文化的景観」の価値を保存・活用していくための取組みを進め、国内外にその魅力を積極的に発信してまいります。

次に、今定例会に提案をさせていただいている「平成 29 年度第三次補正予算案」について申し上げます。

補正予算の主な項目としては、障害者・障害児支援施設の防犯対策強化のため、防犯設備の整備費助成を行うほか、保育士の業務負担軽減を目的とした保育所等への ICT 化推進事業費を助成いたします。

また、連携・協力協定を締結した株式会社タカラトミーの「リカちゃん」を活かした路線バスへのラッピングを行うとともに、運行開始日には記念イベントを実施いたします。

その他、学校法人東京理科大学との基本協定に基づく大学用地の売払収入や、密集住宅市街地

整備促進事業による道路用地の取得費などを計上したところです。

以下、「夢と誇りあるふるさと葛飾」を実現するための「重点施策及び重点事業」について概略を申し上げます。

第一に「子どもが健やかに育つまちづくり」について申し上げます。

まず、「葛飾区子ども・子育て支援事業計画」の見直しについてです。

平成 27 年度から開始した「葛飾区子ども・子育て支援事業計画」では、増加する保育需要に対応するため、前倒しをして保育所の整備を進めております。

今年度の取組みでは、来年度の途中での開設を含めて、認可保育所 8 施設、小規模保育事業所 4 施設を整備することによりまして、合計 528 人の定員増を予定しているところです。これにより、平成 29 年度までの 3 年間における当初の計画量 1,245 人に対し、計画を大幅に上回る、1,614 人の定員拡大となります。

しかしながら、保育需要はさらに増加しており、安心して子どもを産み育て、育児と仕事を両立することができる環境としていくため、今後もこの取り組みを緩めることなく、待機児童解消に向けて保育所等の整備を進めなければなりません。

今年度は「子ども・子育て支援事業計画」の中間年度にあたります。現在、国が発出した見直しのための手引書に基づき、「教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策」の見直し作業を進めており、このたび、区民や学識経験者等からなる「葛飾区子ども・子育て会議」での議論を経て、その概要案がまとまりました。

今回の見直しでは、保育の量について、計画策定後の実態に合わせて推計人口及び保育需要の修正を行ったうえで、保育の量と確保方策を見直すほか、その他の子育て支援事業を含め、質の確保についても焦点を当てた見直しを行っているところでございます。

今後、区議会のご意見も踏まえ、来年 3 月の策定に向けて検討を進めてまいります。

次に、「マタニティパス」についてです。

10 月 30 日から、都内初の取組みとなるマタニティパスの配付を開始いたしました。この事業は、妊婦の方を対象に、産婦人科への通院をはじめ、日常生活における外出を幅広く支援するため、公共交通機関で利用できる 5,500 円分の交通系 IC カードを母子手帳の交付に併せて配付するものです。また、配付にあわせて面談により妊娠・出産・子育てに関する不安や疑問に応じた区の子育てサービスをご案内するゆりかごプランを作成するなど、それぞれの家庭の実情に応じ

たきめ細かい子育て支援サービスを展開してまいります。

次に、「子ども・若者の支援に関する取組み」についてです。

本区では、子ども・若者育成支援推進法に基づき、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者への支援ネットワークの構築を目的として、教育、福祉、保健・医療、矯正・更生保護、雇用及び健全育成の関係機関の代表者などで構成する「葛飾区子ども・若者支援地域協議会」を設置しました。10月に第1回の会議を開催し、子ども・若者の実態を把握するための調査に関する検討を行い、小・中・高校生及びその保護者や若者世代などに対して調査を行うことといたしました。今後は、1月を目途に実態調査やヒアリング調査を実施いたします。その調査結果を基に、「(仮称)葛飾区子ども・若者計画」の策定を平成30年度に進めていく予定です。

この協議会を通じて、関係機関が子どもや若者が抱える課題を共有し、連携して効果的かつ円滑に支援を行う体制を構築してまいります。

次に、「教育研究指定校の取組み」についてです。

本区では、かつしか教育プラン2014いわゆる「葛飾区教育振興基本計画」により、教育研究指定校・園を定め、2年間で今日的な教育課題や葛飾区の教育施策、学校・園が直面している課題について研究を進めています。

今年度は、新規に14校1園が教育研究指定校に加わり、2年次を迎える9校・1園と合わせて、23校2園が、子どもたちが自ら考え学ぶための研究活動や道徳教育についてなどに取り組んでいます。2年次の学校・園については、これまでの研究成果を発表し、区内外の学校へ指導方法や指導技術などの普及と還元を図ると共に、自校の授業改善を進めてまいります。

次に、「不登校対策プロジェクト」についてです。

不登校児童・生徒が学校に通いやすいよう幸田小学校及び中川中学校では、通常の授業を行う教室とは別の部屋で不登校児童・生徒の受け入れ指導を行なう実証研究を行っています。

そのほか、元学校長が全小・中学校を訪問して、児童・生徒の出席状況を確認しています。その上で、不登校児童・生徒については、個々の状況に応じた指導を行い、不登校の改善を図っています。

今年度の取組み成果を検証し、不登校の減少と防止につなげてまいります。

第二に「健康とともに支えあうまちづくり」について申し上げます。

まず、「徘徊高齢者早期発見・早期支援事業」についてです。

本区では、これまで、身元が判明せず、自宅に帰すことができない徘徊高齢者について、身元が判明するまでの間、特別養護老人ホーム、ケアハウス、認知症グループホームなど複数の機関の協力を得て、緊急一時保護を実施してきたところです。

今後は、これらに加えて、「徘徊高齢者早期発見・早期支援事業」として、新たに年中無休、24時間対応のコールセンターを12月15日から設置し、開始いたします。

具体的には、認知症等の症状により、自宅に戻れない、または事故等に巻き込まれるおそれのある高齢者の情報をあらかじめ登録していただき、高齢者には登録番号を記載したシールを身に付けていただくことで、当該高齢者を保護した警察、消防、医療機関からの身元照会に迅速に対応し、当該高齢者が安全・確実に自宅にお帰りいただけるようにしていくものです。

この事業の開始により、これまで以上に認知症高齢者の安全を確保し、安心して在宅生活を送ることが出来るようにしてまいります。

次に、「区民健康づくり」についてです。

12月1日から「かつしか健康チャレンジ事業」を開始し、区民及び区内に在学・在勤する方がスマートフォンのアプリや活動量計を使い、歩数データやカロリーなどにより自身の健康管理に取り組んでいます。また、現在、参加者の取組みの継続意欲を高めるために、1か月間の歩数をウェブサイト上で競うウォーキングイベントを実施しております。今後とも、区民が自らの健康を意識し、健康づくりに取り組むきっかけを提供することで、生活習慣病の予防、健康寿命の延伸を図ってまいります。

また、10月28日に健康プラザかつしかにおいて、「見て！聴いて！測って！体験して！」をキャッチフレーズに「かつしか健康食育フェア2017」を開催し、健康づくり、食育、糖尿病予防をテーマに、骨健康度チェックを新たに実施するなど、体験しながら学べるブースを多く設けました。

これからも、区民の皆様に、楽しみながら健康づくりを実践していただける取組みを進めてまいります。

次に、「ピンクリボンキャンペーン」についてです。

区では、10月の乳がん月間を通じて、乳がん検診の受診及びセルフチェックの大切さをお伝えいたしました。

具体的には、亀有駅南口で啓発ポスターの掲示や横断幕の設置を行ったほか、区役所区民ホー

ルや「かつしか健康食育フェア 2017」において、ピンクの風船で飾ったパネルの展示を行い多くの区民の目に留まるような工夫をしました。

今後とも、区民の皆様が主体的に乳がん検診を受診していただくための啓発を行ってまいります。

次に、「はつらつママさんバレーボール in かつしか」についてです。

12月9日、10日の両日、家庭婦人バレーボール選手や指導者を対象にしたバレーボールイベント「宝くじスポーツフェア はつらつママさんバレーボール in かつしか」を、奥戸総合スポーツセンターで開催いたします。

このイベントは、一般財団法人自治総合センターが、宝くじの社会貢献事業として、オリンピックメダリストや元全日本代表の選手などによる親善試合や教室を全国で開催し、スポーツを通じた地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与することを目的としております。

当日は、日本ビーチバレーボール連盟会長、日本バレーボール協会強化事業本部付顧問の川合俊一さんを始め、江上由美さん、ヨーコゼッターランドさんなど、12人のオリンピックや元全日本代表選手を招いたアトラクション、葛飾区選抜チームとのフレンドリー・マッチなどを予定しています。本区のバレーボール連盟と協力し、愛好者のみならず、多くの区民の方々も楽しめるイベントにしてまいります。

次に、「キャプテン翼CUPかつしか2018」についてです。

サッカー漫画「キャプテン翼」の作者高橋陽一氏を大会アンバサダーにお迎えして実施しているこの大会も、早や3回目を迎えました。

本年度は、平成30年1月6日、7日の両日に東新小岩の「私学事業団総合運動場」で開催いたします。今回は、ゆかりの地域である北海道富良野市、秋田県鹿角市、長崎県平戸市の3つの自治体のほか、新たに静岡市清水区の少年チームにもご参加いただき、サッカーを通じた地域間交流を行います。本区からは南葛 SC ジュニア、葛飾区サッカー連盟選抜、FC バルセロナサッカー学校葛飾校が引き続き参加します。それに加えて、前回優勝の横浜・Fマリノス追浜（おっぱま）や、初代優勝の大宮アルディージャジュニアも参戦するなど、ますますレベルの高い大会となります。

また、北澤豪（きたざわ つよし）さん率いる元日本代表選手でつくるチームの「東邦学園」と来シーズンから東京都社会人1部リーグへ昇格を決めた「南葛 SC」とのエキシビジョンマッチも実施いたします。

サッカーを通じて、心身ともに健やかな青少年の育成やスポーツを通じた各地との交流、スポーツの楽しさを多くの区民に普及してまいります。

第三に「安全・安心なまちづくり」について申し上げます。

まず、「木造密集地域の街づくり」についてです。

本区では、東四つ木、四つ木、東立石、堀切地区において、密集住宅市街地整備促進事業を実施し、主要生活道路の拡幅整備などを進め、地区内の消防活動困難区域の解消に努めてまいりました。

また、建替え助成の対象に新たに新耐震基準の木造住宅を加えました。あわせて個別に対象となる家を訪問して、建替え助成制度や税制優遇について周知を図るなど、不燃化建替えの普及啓発を行い、地区内の不燃領域率を着実に向上させてまいりました。

今後、東京都により指定された不燃化特区の期間が終了する平成 32 年度に向けて、主要生活道路の整備をさらに推進するとともに、不燃化建替えをより一層促進してまいります。

次に、「平成 29 年度葛飾区総合防災訓練・荒川下流防災施設実動訓練」についてです。

去る 10 月 15 日にメイン会場の堀切水辺公園のほか、南綾瀬小学校やウェルピアかつしかなどを活用して訓練を実施いたしました。

堀切水辺公園会場では、区民の方に帰宅困難者役となっただき、陸路が寸断された想定で防災船着場間の水上輸送訓練を行いました。また、国土交通省及び東京消防庁のヘリコプターによる物資輸送訓練を行いました。さらに、ドローンの空撮技術を用いてメイン会場全体の状況を把握するとともに緊急医療救護所の南綾瀬小学校、福祉避難所のウェルピアかつしかとの二元中継を行い、災害対策の拠点の状況を本部が確認するなど、まさに本番さながらの訓練となりました。

そして、この訓練を実施した翌週、台風 21 号が本区を直撃しました。

今回の台風では中川上流部の水位が上昇し、埼玉県吉川市に設置されている観測所において氾濫危険水位を超えたため、10 月 23 日の午前 7 時 30 分に「避難準備・高齢者等避難開始」を発令いたしました。幸い、上流部での氾濫の危険が無くなったため大きな被害を受けることなく、同日の午後 1 時 10 分に発令を解除いたしました。

今後も、区民をはじめ防災関係機関と連携・協働しながら、様々な被害を想定した訓練を重ねるとともに、過去の教訓や今回の台風の経験を活かしながら、区民の生命・財産を守るための取り組みを進めてまいります。

第四に「魅力と活力あふれるまちづくり」について申し上げます。

まず、「駅周辺の街づくり」についてです。

これまで、本区では、生活や賑わいの拠点である鉄道駅を中心とした街づくりに積極的に取り組んでまいりました。

立石駅周辺地区では、今年6月、北口地区において、市街地再開発事業の都市計画決定をいたしました。また、南口東、南口西地区においても、市街地再開発準備組合が合意形成を進めているところです。今後は、京成押上線連続立体交差事業を着実に進めながら、北口及び南口の再開発事業を推進してまいります。

次に、新小岩駅周辺の街づくりについてです。

南北自由通路整備につきましては、平成30年夏頃の暫定使用の開始、また、平成31年夏頃の完成に向けて工事が進められております。地域の懸案であった南北地域の回遊性向上に大きく寄与することが期待されるところです。駅周辺の街づくりにおきましても、地域のまちづくり協議会が策定した「新小岩駅周辺地区街づくり基本計画」を踏まえ、具体的な街づくりの実現に向け、引き続き、地域と区が協働で取り組んでまいります。

次に、金町駅周辺の街づくりについてです。

金町駅周辺地区におきましては、新宿六丁目地区での東京理科大学の開設や大規模集合住宅などの建設に伴い、大学生や若い世帯を中心とした区民が増加しており、地域の活力と賑わいも増してきております。今後とも金町六丁目駅前地区や東金町一丁目西地区の再開発、そして金町駅北口の交通基盤の整備などにより、金町駅を中心として金町地域全体がさらに発展できるよう取り組んでまいります。

次に、高砂駅周辺の街づくりについてです。

高砂駅周辺地区の街づくりについては、今年度、地域の皆さまによる駅周辺地区勉強会を再開し、鉄道立体化を視野に入れた駅前広場や道路整備などの検討を進めています。

これからも、地域や事業者との協働を進め、それぞれの地域特性を踏まえた、活気と賑わいのある拠点形成を目指して、駅周辺の街づくりを着実に推進してまいります。

次に、「公共交通網の充実に向けた取組み」についてです。

区民の移動手段の利便性を高めるためには、将来の社会情勢や地域特性を踏まえ、バス交通の充実や新金貨物線の旅客化などの課題を整理したうえで、区が目指すべき公共交通網のあり方について考えなければなりません。

現在、公共交通網の構築に向けた検討調査を進めているところですが、調査検討にあたっては、学識経験者や交通事業者等を委員とした検討委員会を設置し、「公共交通のさらなる利便性の向上」、「継続可能な公共交通のあり方」、「公共交通による区全体の活性化」の3点を検討の視点としています。特に、路線バスの開設に課題がある地域における高齢者等の移動手段については、様々な運営主体との連携や役割分担を明確にしたうえで、利用者の目線に立ち、具体的な方策を検討してまいります。

バス交通の充実につきましては、今年度は綾瀬駅から小菅・東堀切地区、お花茶屋駅・区役所を經由したウンバス車庫間を結ぶバス社会実験を、10月23日から今年度末までの予定で実施しています。この路線が、小菅・東堀切地区と区役所周辺とを結ぶ路線として定着するために地域住民へのPRに努め、バス交通網のさらなる充実を図ってまいります。

次に、「観光振興」についてです。

まず、「おいでよ亀有ウインターイルミネーション2017」についてです。

「こち亀」のまちとして、国内外から多くの観光客が訪れている亀有の魅力となる亀有駅北口・南口のイルミネーションの点灯式を11月17日に実施いたしました。来年2月末まで亀有のまちをイルミネーションの光で華やかに彩るほか、来年2月3日には、「おいでよ亀有ウインターフェスティバル」を開催し、観光客の誘客と亀有地域のさらなる活性化を地元自治町会や商店街等と協働で取り組んでまいります。

次に「ライティング・コラボレーションかなまち」についてです。

東京理科大学の校舎を巨大スクリーンとして投影する「理科大プロジェクションマッピング」を11月18日・19日の2日間で開催いたしました。

初日には葛飾総合高校吹奏楽部の演奏なども行われ、東京理科大学学生の作品を含め、2日間で計7回の作品上映を多くの方々にお楽しみいただきました。

また、これに併せて、金町駅の北口・南口、そして、東京理科大学周辺を金色に染める「かなまちイルミネーション」を点灯し、来年2月末まで実施してまいります。そのほか、12月17日には、金町駅前団地広場において「ふるさと・クリスマスマーケット」を開催し、本区と包括協定を締結している都市をはじめとする各地の特産品や金町グルメ、クリスマスライブなどを行います。金町地域の商店会や自治町会、東京理科大学等と区の協働により実施する「かなまちの冬を暖かくする3つのイベント」を通じて、金町の魅力を発信してまいります。



次に、「寅さんサミット」についてです。

第3回目となる「寅さんサミット2017」を11月25日・26日の2日間、柴又帝釈天や寅さん記念館などを会場として開催いたしました。

このサミットは、「日本の原風景を守り、後世に伝える」をテーマに、映画「男はつらいよ」の17のロケ地が一堂に会して、各地が大切にしている風景に関するシンポジウムや特産品の販売、地域の文化芸能を披露するもので、参加した各地域との交流を図るとともに、本区の魅力を十分にPRする機会でもあります。今回は、先ほども申し上げましたが、開催前に柴又を重要文化的景観として選定するよう答申されたことから、急きょチラシを作成して配布いたしました。また、寅さんサミットに合わせて、寅さん記念館では、開館20周年の記念イベントとして、映画のロケ地ゆかりの駅弁を集めた「全国駅弁まつり」を実施いたしました。

当日は、区内外からご来場いただいた8万8千人の方々に、柴又や各地域の様々な催し物をお楽しみいただき、映画「男はつらいよ」の世界を堪能していただくことができました。

そのほか、寅さん記念館のPRとともに寅さんサミットの賑わいを演出するため、「寅さん記念館20年の歩み」と題した特別展を11月1日から来年1月14日までの間で開催しております。

今後とも、多くの皆さまに訪れていただけるようロケ地との連携・協力をさらに深めてまいります。

次に、「株式会社タカラトミーと葛飾区との協働」についてです。

今年7月に連携・協力に関する協定を締結した株式会社タカラトミーとの連携事業として、世界中に知名度があり、長きにわたり世代を超えて愛され続けている「リカちゃん」を活用し、区内を運行する路線バスの車体に、「リカちゃんラッピング」を施します。これに併せて運行開始イベントを実施し、本区の認知度を高め、観光客の誘客につなげてまいります。この事業に必要な経費については、補正予算案に計上したところです。

また、12月から「リカちゃんファミリー」と本区のCIマークを印刷した出生届を1万枚作成し、希望者や産院などへ配布することといたしました。出生届に「リカちゃんファミリー」を印刷することで、赤ちゃんの誕生を共に祝い、区への愛着を深めていただけることを期待しております。

次に、「商工振興」についてです。

11月18日、19日の2日間には、新小岩公園におきまして、「食」をテーマとする大規模イベント「かつしかフードフェスタ2017」を開催いたしました。今回も区の内外から6万8千人の方々

にご来場いただき楽しんでいただきました。

今後も、このフードフェスタ等を通じ、葛飾の食の魅力を発信してまいります。

また、平成30年2月8日、9日の二日間、東京国際フォーラムにおいて、区内製造業の販路開拓を支援する「町工場見本市2018」を開催いたします。

区内企業58社、区外企業10社の計68社の出展を予定しており、今回は、著名な講師を招いての特別講演や、区内企業によるパネルディスカッションなど、内容を充実し、より多くの来場者にお越しいただけるよう準備を進めてまいります。この見本市を通じて、企業PRや新規顧客の開拓のほか、商品力の向上、商談スキルの習得、マーケティング力の強化など、総合的な企業体質の強化を図ってまいります。

最後に、「時代の変化に対応できる、迅速・柔軟な取組み」について申し上げます。

まず、「地方版図柄入り新ナンバープレート」についてです。

9月11日から区内関係団体への依頼のほか、区内イベントなどを活用して、地方版図柄入り新ナンバープレートの導入について、区民や関係団体の皆さまの意向を把握するためのアンケートを実施いたしました。その結果、賛成56%、どちらでもよい38%、反対5%の回答を得ました。今後は、図柄案の作成など導入に向けて準備を進めてまいります。

次に、「葛飾赤十字産院の移転建替え」についてです。

葛飾赤十字産院との間で締結した基本協定に基づき、移転先である新宿図書センター及び道路補修課庁舎の解体・撤去工事を行います。それに伴い、9月末日をもって新宿図書センターを休館し、10月17日から新宿憩い交流館内に臨時の新宿図書サービスコーナーを開設し、資料の予約、受取りや返却などの図書サービスを実施しております。

次に、「国際交流」についてです。

はじめに、「葛飾区・ソウル特別市麻浦区スポーツ親善交流派遣」についてです。

本区では、平成27年11月に締結した葛飾区と大韓民国ソウル特別市麻浦区との姉妹都市提携を契機に、昨年4月と今年の4月の2度にわたり、麻浦区の少年サッカーチームが来訪し、小菅西公園フットサル場で本区の子ども達とフットサルの親善試合を行いました。

今回は、麻浦区からのお招きにより、11月3日から5日の2泊3日の日程で、葛飾区サッカー連盟少年部選抜選手団を麻浦区へ派遣いたしました。日韓ワールドカップの開催地「ソウルワールドカップスタジアム」のサブグラウンドにおいて地元小学生などのサッカーチームと親善試合を

行ってまいりました。戦績は1勝1引き分けでした。短い日程ではありましたが、麻浦区からの熱烈な歓迎を受ける中、区民レベルでの親交を深めて、無事に帰国しましたことをご報告申し上げます。

また、11月21日には韓国トップクラスの麻浦区立合唱団が、韓一龍（ハン・イルヨン）麻浦区議会議長とともに来日し、翌22日には、かつしかシンフォニーヒルズにおいて韓国歌曲を中心に素晴らしい演奏を披露しました。また、葛飾区合唱連盟から“かつしかジョイフルハーモニー”の皆さんがゲスト出演し、「ふるさと」をともに合唱するなど、文化・芸術の分野においても両区の交流の歴史に残るコンサートとなりました。

本区と麻浦区が姉妹都市提携を結んで2年が経過し、両区の区民によるスポーツや文化・芸術交流が活発となり、友情の輪はますます広がっています。

本区が世界に開かれた地域社会となるよう、今後も様々な分野と形で交流を深めてまいります。

以上、「夢と誇りあるふるさと葛飾」の実現に向けた主要事業の進捗状況を中心に申し上げます。

その他、今定例会にご提案を申し上げます案件につきましては、上程の折に主管者から詳細にわたりご説明いたしますので、よろしくご決定をいただきますようお願い申し上げます。平成29年第4回区議会定例会の開催にあたりましての私の挨拶といたします。